

は卯辰山に仕置候。右之御好みに付、玉泉院様御知行所大衆免村領之内、當寺居屋敷に致拜領、御印被下候。其後御改被爲成、寛永六年最前之御印被召上、重而從中納言様御印下され、今以所持仕候。以上。

延寶二年七月

金澤卯辰妙泰寺

妙成寺

右妙泰寺開山權大僧都日仁は、越前臨本の妙泰寺より加州へ來り、慶長十五年に金澤に更に一寺を建立し、妙泰寺と號せしもの也。

○理松院殿墳墓

妙泰寺境内にあり。五輪の碑石にて、碑面に如左彫刻す。

元和元乙卯年十月上旬八日

理松院殿壽貞淑靈位

位牌も寺内に建てたり。過去帳に如左載せたり。

理松院殿壽貞大姉

浮田中納言秀家之姫君也。

玉泉院殿之御養女、爲供養地子拜領、當寺大檀那也。

前田家略譜に云ふ。瑞龍公養女、實宇喜多中納言秀家卿女

也。慶長五年從母堂樹正院殿來于金澤、爲瑞龍公之養女、下嫁于山崎阿波長郷、長郷死後、慶長十八年再嫁于富田下野重家、元和元年十月八日卒。法名理松院壽貞大姉、葬于卯辰妙泰寺。とありて、富田氏の室家なり。今世人齒痛を難儀するもの、此の墳墓へ祈誓すれば靈驗ありとて、祈誓の人己が食箸を墓前へ備へ、祈願する人常に不絶といへり。在世中齒痛を難儀せられしにや。

○妙具山全性寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、權大僧都本妙院日仁上人の創立也。日仁は越前國臨本妙泰寺の住職に而、越中國放生津之城主神保安藝守之筋目有之、年來被招に付、大永二年放生津へ引越、彼地に而一寺建立之處、瑞龍公守山御在城之時分、守山へ引越、其後高岡御入城被成故、亦高岡へ引越、右三ヶ所共に寺地千歩宛拜領被仰付。瑞龍公薨逝後、高岡之寺地被召上、圓光寺と一集に金澤へ引越。とありて、即ち卯辰にて寺地賜はり今に至れりとぞ。右由來書にて見れば、妙泰寺と同開基の寺なりけり。

○不動明王

此の不動明王は、舊藩十世泰雲公の守本尊にて、いまだ庶子にてましませし時より甚だ尊敬し給へり。故に世子に立ち給へる寶曆三年、全性寺へ預けられたるよし、文化三年の由來書に載せたり。其の寫如左。

寛保年中當寺十三世通眞院日寛代、泰雲院様御姪胎五ヶ月目、寛保三年御平産之御祈禱被仰付、其節實成院様御參詣被遊候。御加持申上、御符・御札・御守等指上申候而、御安産被爲遊候に付而、泰雲院様御一代御守本尊不動明王彫刻被仰付、則御開眼之儀も當寺へ被仰付、其上當寺へ御預け被遊候。然處寶曆三年に從泰雲院様、城戸元右衛門を以御意被成下候而、不動明王永く御預け可被遊旨被仰渡、泰雲院様御家督御相續被遊候に付、毎月月次御符・御守・御札等指上申候。其砌不動明王厨子、御紋附御戸帳并長持・高提灯等御寄附被遊、毎歲正月元旦不動明王於御寶前御祈禱被仰付。泰雲院様御入國以來、毎月廿七日、廿八日兩日之内不動明王御城に渡、御拜禮御座候而御返座被遊候。泰雲院様御直筆之法華經一部御書寫被爲遊、不動明王御寶

前に御納被爲遊候。泰雲院様御在世中、福嶋武左衛門・笠間宅左衛門を以、御内々に而銀子二拾枚、其後拾枚拜領被仰付候。實成院様より、當寺燒失之後諸尊佛射御寄附御座候。右御預け之不動尊之御祈禱御札・御守等、只今に而も不相替指上申候。依之毎歲十二月、金子一兩三步宛御奉納御座候。

右之外由來并縁起・御寄附狀等無御座候。以上。

文化三年三月

全性寺

右不動尊當寺へ被預に付き、其の緣故を以て舊藩中祈禱所の一寺と成り、天明六年正月廿一日寺屋敷是まで地子地之處、四百三十三步五尺八寸寺社奉行西尾隼人より之奉書を以て拜領地に被命たり。また右泰雲公親筆之法華經一部八卷于今傳來。但し與書等記載無之。

○清正祠堂

全性寺の本堂脇に造營せり。世人俗に清正公と稱し、日蓮宗歸依の徒殊の外信仰になし、常に參詣人絶えずとぞ。或は云ふ。此の祠堂は金澤軍談師の鼻祖渡邊一德齋の勸請也。一德齋は日蓮宗にて、常に加藤肥後守清正の武功を感